

— 経営理念 —

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

— 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、
安心・安全なものづくりを約束します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日

公告方法 電子公告
 公告掲載URL <http://www.fkkasei.co.jp>
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告
 できない場合は、日本経済新聞

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



Interim Business Report

第108期 中間報告書

2018年4月1日～2018年9月30日

藤倉化成株式会社



Segment Review

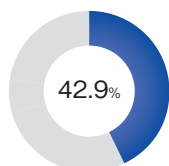
(単位：百万円)

コーティング事業



主要分野

自動車内装分野、自動車外装分野、
自動車電装部品分野、
容器関連分野、携帯電話分野、
家電分野、ホビー分野、
農業資材分野

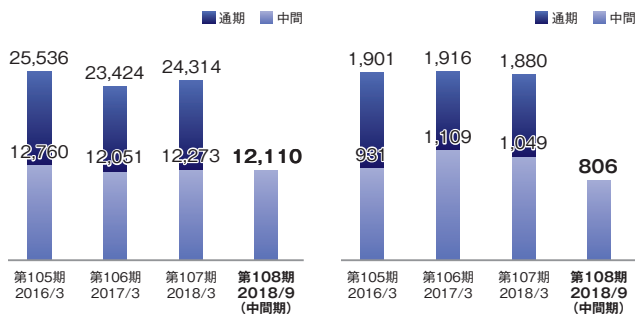


売上高構成比

プラスチック用コーティング材（『レクラック』・『フジハード』など）を取扱うコーティング部門におきましては、国内は、自動車向け市場における需要が堅調に推移したものの、海外は、欧州及び米国の子会社における業績が伸び悩んだことなどもあり、売上高は前年同期を下回りました。

売上高
121億1千万円
(前年同期比1.3%減)

セグメント利益
8億6百万円
(前年同期比23.2%減)

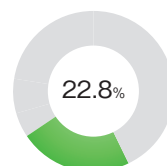


塗料事業



主要分野

外装建材分野、
内装建材分野、
エクステリア材分野、
住宅設備分野

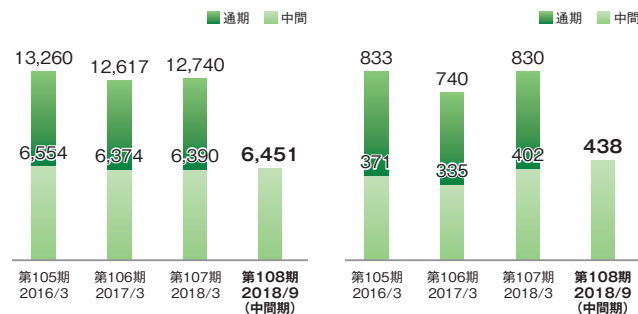


売上高構成比

建築用塗料を取扱う塗料部門におきましては、新製品を中心に販売が拡大し、リフォーム向け市場の需要の減少をカバーするなど、売上高は増加いたしました。

売上高
64億5千1百万円
(前年同期比1.0%増)

セグメント利益
4億3千8百万円
(前年同期比9.0%増)

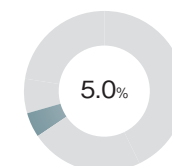


電子材料事業



主要分野

通信機器分野、
表示体分野、
家電分野、
車載用電子機器分野、
OA機器分野

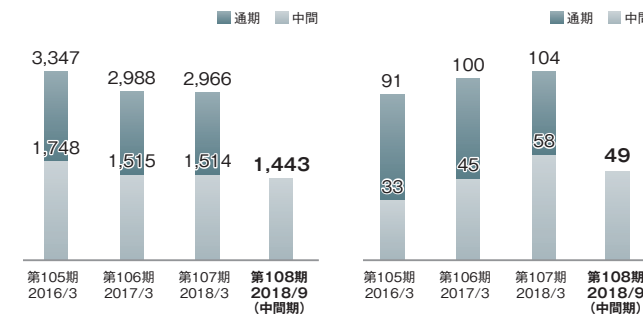


売上高構成比

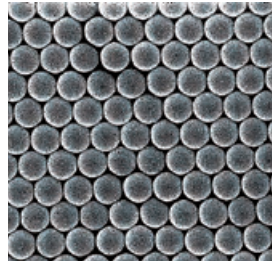
導電性ペースト材（『ドータイト』）などを取扱う電子材料部門におきましては、中国を中心としたアジア市場における需要が低調に推移したことなどにより、売上高は減少いたしました。

売上高
14億4千3百万円
(前年同期比4.7%減)

セグメント利益
4千9百万円
(前年同期比15.2%減)



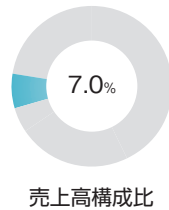
化成品事業



主要分野

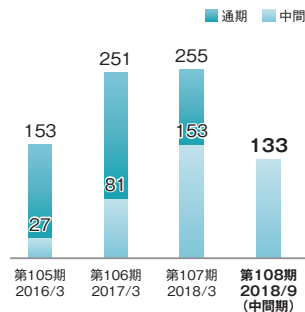
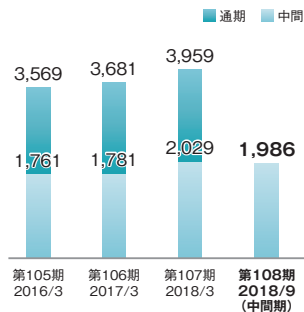
トナー用樹脂分野、
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、
ディスプレイデバイス分野、
メディカル材料分野、
電子部品関連分野

トナー用レジン、樹脂ベース（『アクリベース』）やメディカル材料などを取扱う化成品部門におきましては、粘着剤用途が拡大したことに加え、メディカル材料分野が好調に推移いたしました。トナー用レジン分野における需要が減少し、売上高は前年同期を下回りました。



売上高
19億8千6百万円
(前年同期比2.1%減)

セグメント利益
1億3千3百万円
(前年同期比13.4%減)



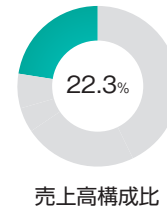
合成樹脂事業



主要分野

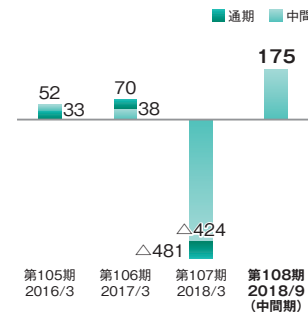
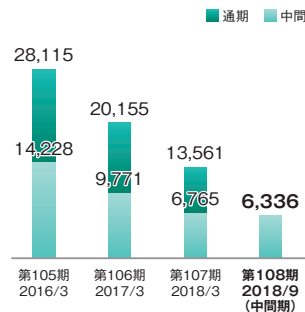
高機能光学材料分野、
工業用銘板分野、
産業資材分野

子会社藤光樹脂株式会社などが取扱うアクリル樹脂の原材料・加工品の販売におきましては、カーエレクトロニクス分野向け商材が好調に推移いたしました。液晶テレビ関連製品における需要が減退したことなどもあり、売上高は減少いたしました。



売上高
63億3千6百万円
(前年同期比6.3%減)

セグメント利益
1億7千5百万円



会社概要 (2018年9月30日現在)

会社名 藤倉化成株式会社
本店所在地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号
本社事務所 東京都港区芝公園二丁目6番15号
設立 1938年9月22日
資本金 53億5千2百万円
従業員数 連結 1,286名
単体 414名
連結子会社数 国内 4社 海外 15社
ホームページ <http://www.fkkasei.co.jp>

株式の状況 (2018年9月30日現在)

発行可能株式総数 84,000,000株
発行済株式の総数 32,716,878株
株主数 3,385名

TOPIC

フジクラカセイ コーティング インディア社
現地生産を開始しました。

FUJIKURA KASEI COATING INDIA PRIVATE LIMITED (フジクラカセイ コーティング インディア社) は、2018年9月インド・ハリヤナ州パワル工業団地に工場を新設し、現地生産を開始いたしました。

同社はインドにおける現地法人として2011年に設立、主に自動車用途のプラスチック用コーティング材の生産・販売を行っております。



To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社第108期中間期（2018年4月1日から2018年9月30日まで）の営業概況等につきご報告申し上げます。

2018年12月

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、各地で地震や豪雨などの自然災害が相次いだものの、堅調な雇用情勢による所得環境の改善や、企業収益の回復に伴う設備投資の増加など、緩やかな回復基調で推移いたしました。世界経済におきましては、米国と中国による貿易摩擦の深刻化や原油価格の上昇に伴う原材料価格の高騰など、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の下、当第2四半期連結累計期間の売上高は282億5千9百万円（前年同期比2.3%減）となり、営業利益は16億1百万円（同29.4%増）、経常利益は17億2千4百万円（同26.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億9千1百万円（同6.5%増）となりました。

当社グループにおきましては、コーティング事業におけるグローバルな事業展開を加速させており、米国、欧州、ASEAN諸国、中国及びインドにおいて現地法人を設立し、「藤倉化成グローバルネットワーク」として、製品の供給体制網の整備を行っております。本年9月には、インドの現地法人において工場の建設を行い、現地生産を開始いたしました。

当社といたしましては、徹底した品質管理と確かな技術力でお客様の信頼とご要望にお応えできるよう、より一層の製品の供給体制・開発体制の整備に努めてまいります。

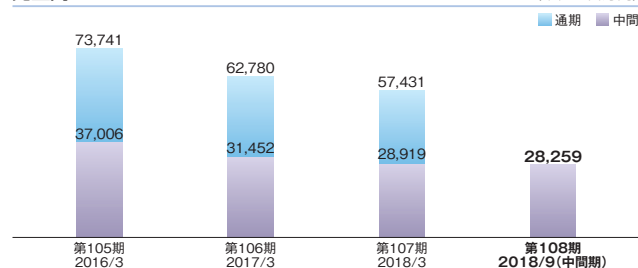
株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **加藤 大輔**

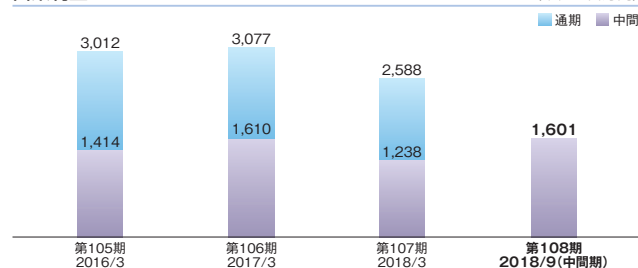
Financial Highlights

連結財務ハイライト

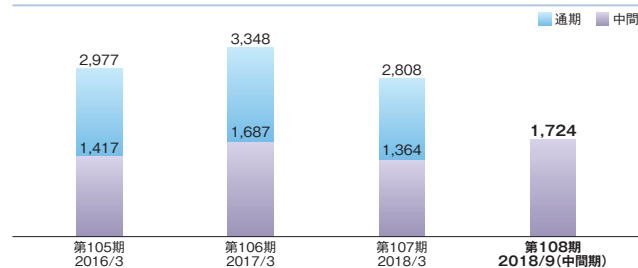
売上高 (単位：百万円)



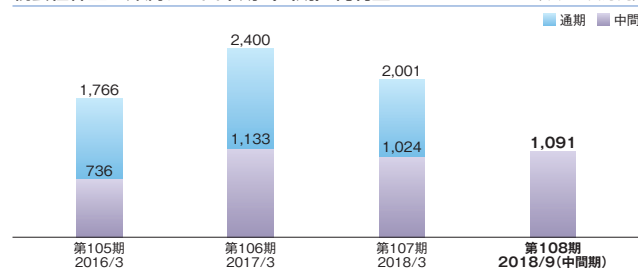
営業利益 (単位：百万円)



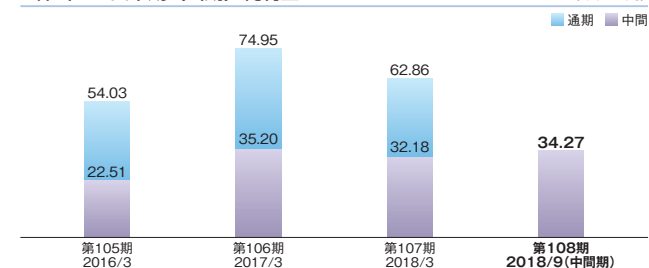
経常利益 (単位：百万円)



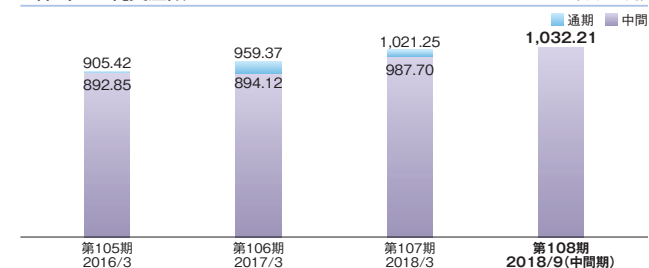
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 (単位：百万円)



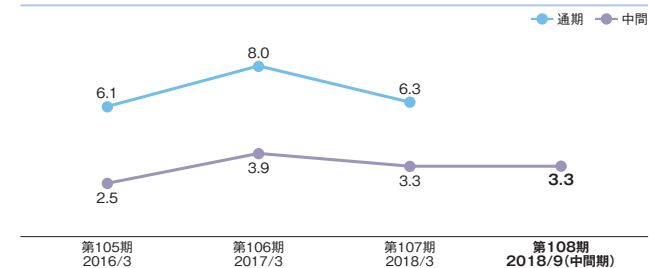
1株当たり四半期（当期）純利益 (単位：円)



1株当たり純資産額 (単位：円)



自己資本利益率（ROE） (単位：%)



総資産事業利益率（ROA） (単位：%)

